

## お客さまへのメッセージ

取締役 常務執行役員  
松岡 信行 (営業統括担当)

## Positive Thinking でお客さまに貢献

「できない理由を言うのはやめよう！ どうしたらできるかを考えよう！」

これは、私が入社した当時の上司が、行動指針（モットー）として常々口にしていた言葉です。当時は、その意味をあまり深く考えていませんでしたが、実際に仕事の経験を積んでいく中で、その言葉の大切さを知ることができました。

以前、あるプロジェクトで大きな問題が発生し、お客さまを含めた多くのメンバーが、納期までに解決するのは無理だと思っていた時のことです。その時のリーダーが、あきらめずに解決の糸口を導き出そうと、色々な視点や発想をヒントに関係者の知恵を引出した結果、なんとか解決の方向性を見出し、最終的には、プロジェクトの成功へと繋げることができました。

この時のリーダーのあきらめない姿勢に、「ポジティブな思考」の重要性を痛感すると同時に、入社当時にはわからなかった言葉の、本当の意味を理解することができました。

我々が属するIT業界では技術の進展が著しく、昨今ではクラウド、モバイル、ビッグデータなど新しい取組みが加速しており、それに伴って、お客さまのニーズも多様化し、求められるシステムも、高度に複雑化してきております。システム作りの現場でも、新技術や高難度、短工期などの様々な課題に遭遇します。

これらの課題を克服していくために、スキルの習得は勿論ですが、何としてもやり遂げるという「ポジティブな思考」が不可欠となります。

今年度は、「とどけ！お客さまに“Initiative7”」という方針を掲げてスタートしました。私たちが培ってきた7つの分野（Initiative7）を、お客さまのビジネスに活用して頂くため、さまざまなノウハウや長年の経験をもつメンバーでチームを結成し、さらに充実・成長させていくための取組みを推進しています。

これからも「ポジティブな思考」で、“社員ひとり一人がお客さまの成功に貢献すること”を目指し、より多くのお客さまに、最適なソリューションをお届けしてまいります。



## ITでつないで資源循環を強力サポート！

平成25年5月に公表された環境省の「第三次循環型社会形成推進基本計画」によると、日本の環境保全への取組み状況は、27年度目標を前倒しで達成している項目もあり、順調に推移しているとの報告です。

一方で、東日本大震災での災害廃棄物問題、アジアを中心とした途上国での廃棄物問題、天然資源需要逼迫など、日本を取り巻く課題は深刻であると指摘されています。この解決のためには、安全・安心を確保しつつ、廃棄物を「処理」から「資源としての循環利用」へと転換していくことで、「循環の質の向上」を目指していく必要があると言われています。

弊社では、このような資源循環の流れを、動脈と静脈の二つのITソリューションでご支援しています。

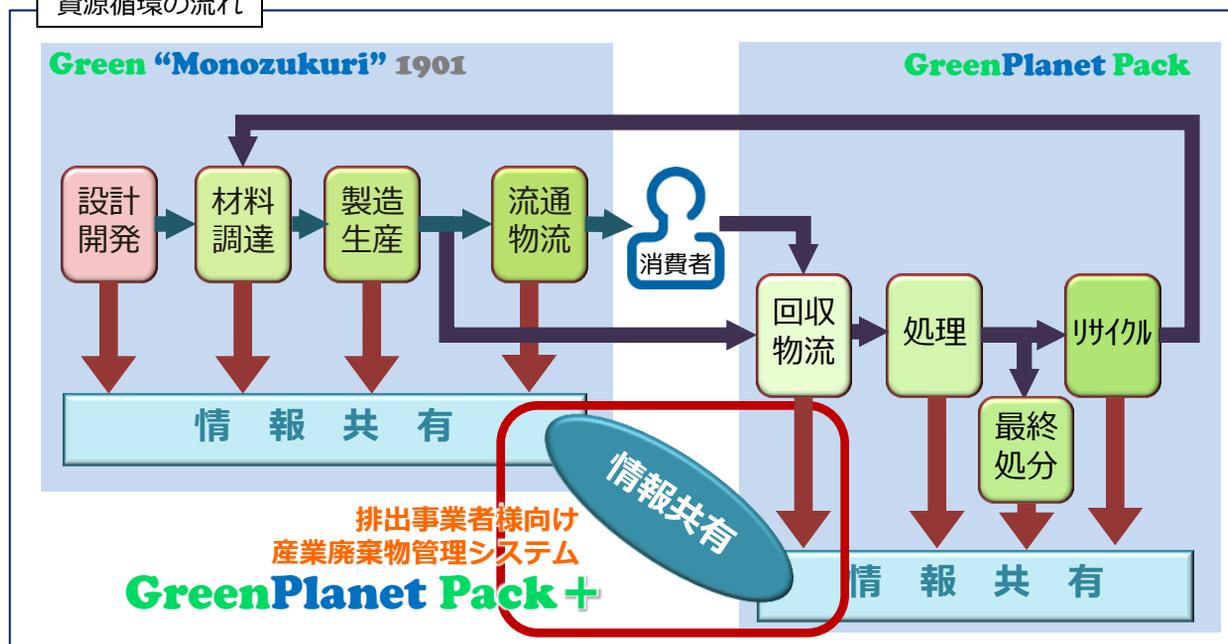
<動脈サプライチェーン> 製造テンプレート「**Green “Monozukuri” 1901**」

<静脈サプライチェーン> 産廃処理事業者様向け基幹システム「**GreenPlanet Pack**」

また、適正で安全な処理の保証が厳しく求められ、年々重くなっている企業さまの排出者責任をサポートするため、昨年リリースしました「**GreenPlanet Pack+**」では、クラウドシステム上で、排出事業者と優良産廃処理事業者とをつなぐことによって、委託した廃棄物処理が、適正に処理完了されるまでを「見える化」し、確認することができます。

私たちは、この3つのITソリューションで、社会における資源循環全体の情報共有と最適化を促進し、「循環の質の向上」に貢献していきたいと考えています。

### 資源循環の流れ



# 240台のソフトウェア更新をボタン1つで！



公立大学法人 北九州市立大学

北九州市立大学さまでは、学生サービスを向上するため、教育インフラをより充実させ、安全で快適な学習環境を提供することを目指しています。今回、Windows XPのサポート切れを機に、セキュリティ強化やユーザビリティの向上を目的として、自習室用パソコン240台の仮想化を行いました。

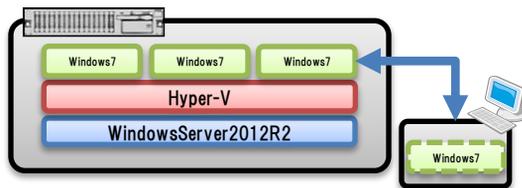
## ★北九州市立大学さまが実現したかったこと

1. 最大240台の同時アクセスに耐えられる“仮想環境”を構築したい
2. Windows Updateなど、ソフトウェア更新作業にかかる運用負荷を低減したい
3. 保有するパソコンやライセンスなどの既存資産を最大限に活用したい
4. 自習室パソコンの起動時間を短縮したい（ユーザビリティの向上）

## ★仮想環境構築のポイント

1. アクセスピーク（最大240台）に耐えられる、最小構成のサーバー数（サーバー4台）
2. 自習室パソコンの共通マスター化による保守・運用負荷の低減
3. 大学のスクールアグリーメント契約<sup>(※1)</sup>を有効活用することで、ソフトウェアプロダクト費用を大幅に削減でき、今回採用したHyper-VによるMS-VDIシステムは、これら契約範囲内で構築が可能 ※1：教育機関向けの包括契約
4. 最新の接続プロトコルを利用することにより、パソコンの起動時間を1/3に短縮

### ◇システム構成



## ★あとがき

北九州市立大学さまの事例では、月次のWindows Update等のソフトウェア更新作業で、自習室が閉鎖される事もなくなり、パソコン起動時のレスポンスも向上した結果、自習室の利用者数が増加しました。

今後のお話として、北九州市立大学さまは、

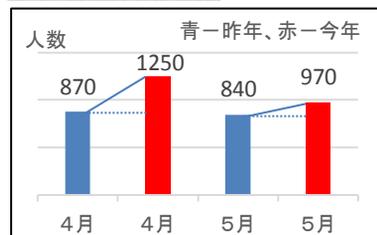
「更なるレスポンス向上や運用負荷の低減を目指しながら、自習室だけでなく学内のその他のパソコンへの仮想化を推進していき、より安全・安心なIT環境の提供を目指していきたい。」と、展望をお話してくださいました。

こういったお客さまのご要望に対しても、十二分に満足頂ける提案ができるよう、

研鑽してまいります。

（公共/公益ソリューション部 文教ソリューショングループ 原 功治）

### ◇自習室利用者数



## 2014年度 キックオフ

4月25日 ウェル戸畑にて、2014年度 SOLNETキックオフを開催しました。今年も147名の社員が参加し、前年度“社MVP”の第1SI&S事業部 相島さんの司会進行の中、社長の長浜さんが、今年度キックオフの熱いメッセージを社員に伝えました。

今回のキックオフの目玉は、**“恋するフォーチュンクッキー SOLNET Ver.”**です。弊社の社屋や駐車場、テニスコートなど、あちこちで社員たちが踊り、若手メンバーが振付・撮影・編集をしたもので、突貫工事ながら、参加した社員で鑑賞・大爆笑しつつ、今までとは違った形で全社員の一体感を感じることができました。準備が出来次第、一般公開したいと思っています。乞うご期待!!



長浜さん年度初メッセージ



2013SOLNET MVP軍団

## 人事関連 (教育関連)

### 1. マネジメント研修

今年より、年2回実施しているマネジメント研修に先立ち、新グループリーダー向けに着任研修を行うことにしました。

その研修では、「女性の活力を最大限に活かすためには、その上司となる“イクボス（育Boss）研修”が必要である」との考えから、結婚～出産・育児～復帰までの諸制度の説明を重点的に行いました。その後の、マネジメント研修では、今年度の社方針**“とどけ！お客様に Initiative7”**を確実に実施すべく、全員の認識を新たにしました。



新GL研修風景



### 2. パワーアップ・フォーラム(春)

パワーアップフォーラムも10回目を数え、第1SI&S事業部の中山さんが、持ち味を活かした楽しい司会進行を行う中、過去最高の118名の社員が出席し、盛大に開催しました。

発表は、技術開発・営業・コンサルティング・ソリューションと多岐にわたり、Goodポイント&Badポイント両面についてのリアルな活動報告を行いました。

発表後の質疑応答では、もっと深く、多くの事を知りたいと、質問が続き、途中で司会者が止めざるを得ない程の盛況でした。

(事業管理)



発表者と経営メンバー

## CSR活動・社会貢献活動

### 1. 『女性の大活躍推進福岡県会議』一周年記念式典参加

弊社が今年2月に自主宣言登録した『女性の大活躍推進福岡県会議』の一周年記念式典が5月30日に開催され、事業管理担当上別府さんが出席しました。森まさこ女性活力・子育て支援担当大臣のお話から、弊社の今後の取組みにつながるさまざまなヒントをいただきました。



於：電気ビルみらいホール

### 2. 被災地直接支援『森の長城プロジェクト』企画参加

宮城県岩沼市にて『～瓦礫を活かす～ 森の長城プロジェクト』が5月31日に開催されました。植樹を主とした被災地支援活動で、昨年度よりJ Bグループが協力を形で活動しています。弊社から参加した久富さんは、“復興に向けての地域の熱い想い”に触れ「東北に行く度に、元気を貰っています」と話してくれました。



### 3. 『春の東田クリーンアップ2014』

5月30日(ごみゼロの日)の八幡東田まちづくり連絡会主催【春の東田クリーンアップ2014】に、3名で参加しました。「夏日 & PM2.5が多め」というダブルの悪環境予報通り、大変暑い日差しの下、マスクと長袖の完全防備でごみ拾いをし、東田のクリーンアップのお手伝いをしました。



## その他・トピックス

### 1. TV取材(テレビ西日本:土曜NEWSファイル CUBE)

6月7日放映の特集番組【“就職に強い”を特色に～大学の将来戦略に迫る】にて、女性の活躍の場が大いにある企業として、弊社が紹介されました。番組をご覧になったお客さまから、早速励ましのお言葉をいただくなど、うれしい反響がありました。



TV取材風景

★7/10頃、弊社ホームページにて公開予定です♪

SOLNET

検索



### 2. 新人歓迎会

今年度は、キックオフに引き続き、過去最高の130名を超える参加者で盛大に開催しました。大勢の先輩社員の歓迎に応え、新人社員は、“きゃりーぱみゅぱみゅ”のダンスを披露して、今年も楽しく盛り上げてくれました。(事業管理)



新人歓迎会の様子

## 「お客さまとの関係」という資産



「今年のチェンバースパックユーザー会 総会はまだ開催されないのですか？」

弊社の商工会議所向け専用ソリューション「チェンバースパック」を、十数年ご愛顧いただいている商工会議所さまから、お問い合わせをいただきました。総会を楽しみにして下さっているご様子が本当にうれしく、あわてて今年度の開催日程をお伝えしました。

今年度の“チェンバースパックユーザー会”（CPU会）総会は、こちらも十数年来のユーザーさまである、川崎商工会議所さまの真新しい会議室をお借りして、5月29日に開催いたしました。



このCPU会は、チェンバースパックをご利用中の商工会議所さまを会員としたユーザーコミュニティで、その会員同士の直接の交流の場を「総会」としております。今年度は、北は山形から南は長崎まで、全国17会議所24名のユーザーさまにご参集いただき、盛況に情報交換と交流が行われました。

総会では、チェンバースパックを中心とした商工会議所さまの業務やIT運用における、共通の課題解決を目的としています。そのセッションとして、商工会議所さまによる事例報告枠を設定し、できる限り生の声で、よいことも悪いことも積極的に共有いただけるようにしました。

今回は、お客さまへのサービスとして商工会議所さまが取組まれている先進的な事例もご報告頂き、そのアイデアと取組みへの姿勢に対し、参加者から非常に大きな反響がありました。チェンバースパックが、今後取組むべき一つの方向性を示していただいたと感じています。

2009年の第一回 総会から、毎回多くの方々にご参加いただいた結果、のべ120名以上ものユーザーさまにご交流頂きました。商工会議所さまと十数年培ってきたシステム運用ノウハウ



セッション後の交流会の様子

やソリューションそのものは、もちろん弊社の資産ではありますが、このような会を、毎年盛大に開催できる商工会議所さまとの関係こそが、最も重要な資産であることを改めて認識し、この資産を失わないよう様々な機会を通して、しっかりと、お客さまの成功に貢献していく所存です。

（第2SI&S事業部 公共／公益ソリューション部 松田 真吾）

# お客さまの想いを感じて！

私たち営業部は、Initiative7の中の主に公共、公益、文教、医療、製造分野のお客さまをご担当させて頂いています。

営業部には、長年経験を積んできた営業マンや、フレッシュさと熱意を持った若手営業マンが所属しており、各々の特長を活かして活動しています。

お客さまの抱える課題や悩み解決のお手伝いをさせて頂く際は、経験や知見だけでなく、新しい発想や技術のエッセンスも加え、お客さまの笑顔を想像しながら、チームで提案内容を練っていきます。

また、個人のスキルアップとして、様々なプロジェクトのノウハウや教訓を全社で共有する

“パワーアップフォーラム”や、部内で定期的に講師を持ち合い、個人の経験や知見を情報共有する勉強会（通称：サンゲツ会）などを実施しています。

これからもお客さまの立場に立って、課題や悩みに対する想いを感じ取り、未永くお付き合い頂けるよう営業部一丸となって、更に進化していきます。今後とも宜しくお願いします。

(営業グループ 佐藤 大樹)



仕事に取組む姿勢は真面目ですが、いつも明るく、笑いが絶えない部門です

## ～ お客さまへのメッセージ ～

斉藤 浩由紀 : ソルネットの元気集団、営業部です！  
今までも、今も、そして、これからも元気よく（^o^）／

吉丸 賢二 : 『元気な挨拶』と『いつも笑顔』が自分の長所です。

寺師 岳陽 : ふんわりしたご要望、大歓迎です、大好物です。お聞かせください。

津田 智之 : 私のサービスは、お客さまへの態度やもてなしの心でお届けいたします。

近藤 翔太 : どんな相談でもお客さまと一緒に一生懸命考えます。是非ご相談ください。

久保田 伸吾 : この道一筋30年。経験だけは自信アリ！！

中山 孝 : お客さまの課題解決や改善に全力で取組んで参ります。今日も一日ご安全に。

佐藤 大樹 : お客さまと同じゴールに向かって、どんなことでも全力で頑張ります。

## わたしたちには、得意技があります

「やっぱり自分は、生産管理のシステムが大好きなんだなって、つくづく思ったよ!」と、目を輝かせて先輩社員が言いました。その社員が、久しぶりに生産管理のシステムを担当することになり、初回のヒアリングから帰る道のりでのことです。

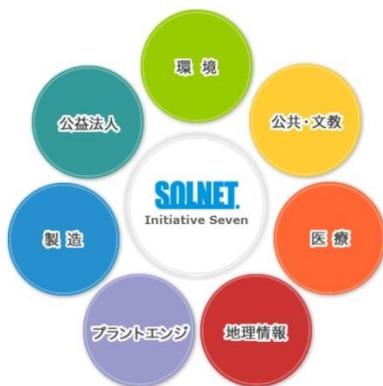
聞けば、入社以来ずっと、さまざまな製造業のお客さま先で、現場のご担当者さまと、昼も夜も膝を突き合わせ、失敗も成功もともに味わいながら、生産管理のシステム構築や運用を行ってきたとのことでした。うれしそうに話すその様子を見てみると、お客さまから教わったさまざまなことが少しずつ蓄積され、本人の「得意分野」として、今、かけがえのないものになっているのだということがよくわかりました。

もちろんこの社員だけでなく、弊社の社員ひとり一人が、日々の関わりの中で、お客さまからいろいろなことを教えていただいています。その知識やノウハウは、個人が経験を重ねて大切に磨きながら、ほかの社員と共有することで、さらに広がり、深まっています。

それはまるで、雨の恵みが降り注ぎ、その一滴一滴がまんべんなく土壌を潤して、やがて大きな木を育てることに似ています。47年間の長きにわたり、さまざまなお客さまから数えきれないほどの知識やノウハウをいただいたことによって、弊社の社員のみならず、社としての「得意技」も大きく育てることができました。

数年前、これら弊社の得意技7分野を「光りもの」としてピックアップし、特に自信を持ってお客さまにお届けできるソリューションという意味を含め、これを「Initiative7」と名付けました。

これまでにご縁のあった企業・団体のご担当者さまおひとりおひとりに感謝しつつ、この誇らしい「Initiative7」をさらにレベルアップして、これまで以上にお客さまのビジネスに貢献できるよう、努力していきたく思います。 (Y.N)



### 編集後記

トピックス(頁5)で、TV取材の件をご紹介しました。実はその他にも、JBグループの50周年企画として、5分番組やCMも制作しています。公共交通機関などの掲示広告とはずこし違い、TV番組となると家族も興味津々だったようで、TVの前に、横一列で並んだ状態で観ていました(笑)

社員からも、多くのお客さまが番組を見て下さったとの報告や、家族と番組を観て盛り上がったという話を聞き、メディアの“力”を実感。本紙も負けていられないなあ~と思いました。(K.K)

